

セントメアリーズ大学(カナダ)語学留学について

経済学部 3年 峰村 英史



私は、現在カナダの東海岸のハリファックスにある セント・メアリーズ大学の語学センターで英語を学んでいます。私が留学に出発するまでに体験したことや、ハリファックスでの生活で感じたことなどをまとめたいと思います。

まず、留学に行く場合は各学部で留学前に取得しておかなければならない単位数や留学先での取得単位認定のやり方が異なるため自分が所属する学部の事務室に確認します。

もしも、留学に行ける要件を満たしていたなら、国際教育センターへ行きそこから本格的な留学準備が始まります。

城西大学では、アメリカ、カナダ、中国、韓国、ハンガリー、チェコ、ポーランドなど様々な国へ留学することができます。留学先を選択するには自分が何を学びたいのか、また何をしてみたいのかが重要になります。留学先や留学方法によって、TOEICのスコアが必要になってきます。もちろん、各大学の情報は国際教育センターに聞けば基本的に教えてくれます。さらに、自分のやりたいこととその留学先が一致しているかについても相談することもでき、一緒に考えてくれます。

留学に興味があれば、留学にすぐに行けるかというところではありません。留学の準備にはとても時間がかかります。私の場合は一年以上かかりました。準備を始めた時は簡単だと思っていましたが、いざやってみるととても時間がかかりました。なぜなら、普通の授業と英語学習と留学準備を平行して行わなければいけなかったからです。前期の授業の空き時間には、国際教育センターに毎日のように通っていました。わからない事は教えてくれますが、自分で準備を進めていくことが基本になります。

留学準備が終わると、いよいよ出発です。私の場合、成田空港からトロントまで 12 時間、トロントからハリファックスまでは約 2 時間 30 分かかり、長いフライトでした。トロントからハリファックスへの便が遅延したので私は成田空港を日本時間の午後 6 時に出国してカナダ時間の午後 11 時(日本時間だと午前 11 時)に空港に着きました。トランジットをする場合は十分に余裕を持ってフライトを予約するほうが良いと思います。



空港に着いてからはバゲージセンターで大学の目印の看板を持った大学のスタッフと合流し説明を受けました。その後、自分の荷物を受け取り同じ方向の家にホームステイする人と共にタクシーでホームステイ先まで案内してもらいました。ホームステイ先には午前 1 時に着きましたが、その時間までマザーは起きて待っていてくれました。

飛行機の出発した時間が土曜日の午後 6 時でホームステイ先に着いたのが現地時間の日曜日の午前 1 時でした。カナダと日本との時差は 12 時間で、半日ずれるため初日は眠れませんでした。日曜日の午前中は学校への行き方を確認するために学校へ行きました。学校までは、バスとフェリーを使っていきます。ハリファックスでは日本のような電車はなく、バスがメインの交通手段になります。

月曜日からオリエンテーションが始まりました。校舎の説明や校内での注意点などの説明を受けた後に、クラス分けのテストを受けます。テストの内容は、スピーキング力が試される面接テストと文法力などが問われるコンピューターでのテストの二種類です。クラスは少人数制になっていて先生が一人ひとりに丁寧に教えてくれます。当然のことですが、クラスメイトは様々な国の人がいるので毎日英語を使わなければいけません。



毎日の食事は、朝食はフレークがメインで昼食はマザーがサンドイッチをいつも作ってくれます。昼食のサンドイッチでは足りない時には学食でドーナツやピザを買って食べます。夕食は、一番食べ物の量が多く豪華です。週に何回かは友達と外食に行きますが、決して安いとは言えないので基本は家で食べるようにしています。普段の食事においては、パスタやマカロニなどです。また、箸を使う文化ではないので普通はスプーン、フォーク、ナイフを使って食べます。私は、普段からそれらを使って食事をすることはあまりなかったためマナーが悪く何度かマザーに注意されました。

その他にも、海外の交通は日本では左側通行ですが右側通行です。分かっているつもりでも不意に人とすれ違う時、左に避けてしまって間違えたと自分の心の中で思ったりしています。またチップ文化があり食事をしたあとにチップを払うことにも初めは戸惑いました。様々な違いはありますが、それらを理解し慣れていかなければなりません。それらも留学の1つの学習だと私は思っています。

カナダでたくさんの方に自分から挑戦して、英語の勉強はもちろん沢山の友達を作りたいです。